

# 乳児に対する母親のかかわりに影響を及ぼす要因

## —乳児の月齢を考慮した探索的検討—

(中間報告)

名古屋大学大学院教育発達科学研究科 上 嶋 菜 摘

### はじめに

育児が困難な時代になったといわれるようになって久しい。子育てに関して、育児困難感や育児ストレスに関する研究が多く行われ (e.g. 奈良間ほか, 1999; 川井ほか, 2000), 母親のメンタルヘルスとの関連やサポートの重要性が示されてきた。これを反映して, 子育てサークルの開催や支援センターの整備といった制度面での充実が行われてきた。しかし, 日常場面に目を向けると, 乳幼児健診や育児相談の際に「どのようにかかわったらよいのかかわらない」と訴える母親が依然として多いのが現状である。特に, 子どもに発達のアンバランスさがある場合に, 母親は子どもにかかわりにくさを訴えることが多い。乳幼児の母子相互作用は, 母親側からのかかわりによるところが大きく, 母親の「子どもに対して上手くかかわれない」という訴えは深刻に受け止める必要があるだろう。これらの現状からは, 子育て支援の場を提供するのみではなく, 日常の様々な場面において, 子どもにどのようにかかわるのかというより具体的な難しさに対する援助が求められているといえよう。本研究は, 乳児期早期の母子相互作用の中でも, 母親から乳児に向けられるかかわりに着目し, 母親の適応的なかかわりを促すという援助に向けた基礎的な研究を行うことをねらいとして行っている。

### 問題と目的

母子相互作用における母親から乳幼児へのかかわりを捉える際に, 母親による乳幼児の内的状態の読み取りが重要視されてきた。例えば, 母親が乳児のどのような思考や欲求, 感情といった内的状態を読み取ったのかとその後の母親のかかわり方には関連があることが報告されており (Sorice & Emde, 1982), 母親が乳児の情動表現に気づくことの重要性が述べられている (Emde&Sorice,1988)。近年, 養育者による乳幼児の内的状態の読み取りに関して, Mind-mindedness (Meins, 1997) や Insightfulness (Oppenheim & Koren-Karie, 2002) といった測定法が開発され, さらに研究が進められるようになった。そして, Meins, Fernyhough, Wainwright, Clark-Carter, DasGupta, Fradly, & Turckey (2003) は, 生後6ヵ月児の心の状態に関する母親からの適切な言及の多さは, その子どもの幼児期の心の理論課題の成績と関連していることを示している。また, Oppenheim, Koren-Karie, & Sagi (2001) は, 4-5歳時点における母親の共感的理解は, 12ヶ月時点での子どもの愛着のタイプと関連していることを示している。このように, 乳幼児期における母親の子どもの内的状態に関する読み取りは, 子どもの愛着形成や認知発達といった発達に影響を与えるという知見が得られてい

る。つまり、これらの研究では、“母親が子どもに与える影響”に焦点が当てられてきた。

それでは、“母親は子どもから”どのように影響を受けているのだろうか。母親のかかわりと子どもの状態の読み取りを検討した研究として、生後6ヵ月時点での母親の Mind-mindedness の高低による母親の乳児に対するかかわり方に質的な違い(篠原, 2006)や、母親の Insightfulness の高さによる子どもに対する敏感性の違い(Koren-Karie & Oppenheim, 2002)が示されている。これらの結果からは、乳児に向けられる母親のかかわりは、乳児の内的状態の読み取り方からある一定の影響を受けていると考えられる。しかし、乳児へのかかわりは、乳児の状態に関する「楽しい」「眠たい」といった母親の読み取りのみに規定されて一義的に定まるとは考えられにくい。

青木・馬場・出蔵・古川(1999)は、母親が乳児に対して情動調律行動を行った場面に限定し、母親の気持ちを尋ねる質問を行っている。その結果、子どもに対するコントロール意図や母親自身の感情状態が、情動調律行動の背景に働いていることを示している。しかし、母親が子どもにかかわる際の意図や感情状態に関する研究は非常に少なく、これらが乳児に対するかかわりにどの程度、あるいはどのように影響を与えているのかについては明らかにされていないのが現状である。

上嶋(2008)では、乳児に対するかかわりにおいて母親が用いている手がかりについて、幅広く捉える試みを行ってきた。その結果、母親が、9ヶ月児に対してかかわりを決める際には、読み取った乳児の内的状態(例「楽しい」「集中してる」)だけでなく、乳児の状態によって喚起される母親の内的状態(意図や動機)(例「もっと喜ばせてあげたい」「落ち着かせてあげたくなるから」)が手がかりとして用いられていることが示唆された。また、乳児の内的状態との関係が比較的小さい母親自身の感情状態や育児に関する知識(例「いてもたってもいられない」「音がする物に興味がある時期だから」といった幅広い手がかりが用いられていることも示された。ただし、これは9ヶ月齢の子どもを刺激とし、9ヶ月以上の子どもを育てる母親に対して調査を行ったもので、一般化することはできない。つまり、9ヶ月児という月齢ではすでに子どもの内的状態が比較的分かりやすかった可能性や、調査対象者はすでに自身の子どもの9ヶ月時点の子どもを経験しているため、乳児の状態を把握することは比較的容易であった可能性が考えられる。一般に、乳児の内的状態は月齢とともに分化し、母親は子どもの行動の意図を把握しやすくなる。このことから、子どもの月齢によって、母親が手がかりとする内容の質は変化し、子どもの発達とともに子どもの内的状態を元にした手がかりを利用できるようになると考えられる。逆にいえば、乳児期早期においては、子どもの行動の意図が把握しにくいために、母親自身の感情状態や育児知識から影響を受けやすく、子どもの状態とかみあわないというリスクが高まる可能性にもつながるだろう。

以上を踏まえ、本研究では、母親が育てる乳児の月齢と刺激に映る乳児の月齢を一致させ、母親が育てる子どもが生後3ヵ月齢の時点から歩行開始期である生後12ヵ月齢まで継続的に調査を行う。そして、子どもの発達的变化に合わせて母親が利用しやすい手がかりを把握することを目的とする。本中間報告では、本研究で用いる方法の紹介と生後3ヵ月児を育てる母親の典型的な面接結果を事例として示し、今後の研究計画について報告する。

## 方法

**手続き** 研究者が個別に家庭訪問を行い、PCに3ヶ月児が映っている15秒のビデオクリップ5本を刺激として提示しながら半構造化面接を行った。面接では、一つめに、ビデオクリップに映る乳児に対するかかわり方を決めさせる質問を行った。この問いに対する回答を元に、二つ目の質問でかかわり方を決める際に母親が用いた手がかりを尋ねる質問を行った。ビデオクリップの内容は、表1に示した。なお、面接の際には、協力者の子どもも同席しており、子どもがぐずったときには適宜中断し、母親の判断で面接を再開した。

**事例の概要** 生後4ヵ月3日の男児の母親（29歳）であった。面接は、協力者の自宅で行った。この男児は第一子であり、調査時点での発達上の問題は認められなかった。母親は、現在休職中で、実家や夫のサポートを受けながら楽しく子育てをしているとのことであった。

表1 事例の内容

ビデオクリップの内容	かかわりの要約	手がかりの回答
子ども、母親を見上げて声を出して笑っている。母親は、話しかけている。	「今なにしたいのかな？笑ってるね」とかしゃべりかけて、子どもの体に触って遊ぶ。	みんながやってたのも見てたし、本読んでそこからっていうわけではなく、何かしゃべったらしゃべってほしいっていうのがある。ほっとかれたくないっていうか。<誰が？>私だったら声だしたらかまってほしいっていうのがある。
子どもは、吊り下げ式のおもちゃの下に仰向けになり、上のおもちゃや横を向いている。	ぬいぐるみを揺らしてあげたり、近づけて届くようにしてあげたりする。	手が上にのびてたので、 <u>触りたいのかな？</u> <u>だけどちょっと届かないな</u> って(乳児が)感じてそうだから。
子どもは、ベビーベッドの上で仰向けで泣いている。	オムツを見て、前の授乳から経過した時間によって、口のところで子どもが欲しがるかをみたり、抱っこして落ち着くか具合をみてる。	ぐずってるから。表情とか目とか、何かちよつと怒ってる感じがするから、自分で何とかできない手の動きっていうかパタパタ落ち着かず機嫌が悪いような感じがするから。
子どもは、片手を口に入れながら、しかけて動くおもちゃを見つめている。	「動いたねー」などと声をかけたり、赤ちゃんにおもちゃを触らせたりする。	やっぱりいっぱい刺激を与えたいなって思うから。
子どもは、ベビーベッドに仰向けになってカメラ視線をしている。	何もせずに見ている。	少しボーっとしてる感じがあるので、 <u>眠たいのか？何か考えてるのか？泣き出すのか寝だすのかまだわからないので、R(子どもの名前)だったらそのままグズグズ寝るときもあるし、寝れないときもあるから、寝れないんだったらお布団かけてあげたりするし。</u>

## 結果と考察

ビデオクリップの内容と、それぞれのクリップに対する質問1の回答の要約と質問2の回答を表1に示した。手がかりの回答に関しては、①回答において子どもの内的状態が手がかりになっていると考えられる部分(下線)、②乳児の状態に関連した母親の内的状態が手がかりになっている部分(太字)、③母親自身の感情状態や育児に関する知識(経験)が優位に手がかりになっている部分(斜線)の3つの観点から検討を行った。

①の観点からは、3つのビデオクリップにおいて疑問系で言及されていた。このことから、生後3ヵ月の乳児に対しては、母親が乳児の内的状態を明確に読み取り、それを手がかりとしてかかわることは少ないことが予想された。また、母親の回答からは、乳児の手や表情、目といった客観的な乳児

の状態から乳児の内的状態を読み取ろうとしていることが示された。かかわりの内容からも、授乳を欲しがるか試したり、ぬいぐるみを触らせてみたりすることで、乳児の内的状態を母親がより明確に把握しようと試みる内容が多いことがうかがえた。

②について、乳児の内的状態に対する明確な働きかけの意図は回答の中に見られなかった。これは、乳児の内的状態がはっきりしたものとして把握されなかったことと関係していると考えられる。

③の観点からは、母親自身の気持ちや、まわりの母親の例やわが子の場合など育児経験による知識について回答がなされていた。これらより、乳児の内的状態が母親にとって明確に分かりにくい生後3ヵ月という時期においては、母親自身の感情状態や育児の知識が、母親のかかわりに影響を与えることが示唆された。

これまでに調査を終えた3ヶ月児の母親からは、「赤ちゃんが何か訴えようとしてるけど、それがわからない」というコメントが比較的多くきかれている。今後は、乳児の内的状態が発達とともに分化し、行動の意図が把握しやすくなるにつれて、母親のかかわりに子どもの状態が影響を及ぼしやすくなるのか、他の要因がどのように変化するのかについて検討を続ける。子どもに対してうまくかかわれない母親に対して、子どもの発達時期に応じて具体的な援助方法の提案を行っていくことで、早期からの母子関係の構築を促すことにつなげることに応用できると考えられる。

## まとめと今後の計画

本研究の結果は、母親にヒントを与えることになり、実際の母子相互作用に介入するよりも侵入性が低いと考えられるため、虐待や育て難さといった母親がかかえる問題を捉える際の臨床的ツールとしての貢献も期待される。現在は、協力者が育てる子どもの月齢に併せたVTR刺激を用いた縦断研究を行い、乳児期早期から歩行開始前までの複数の調査ポイントでの面接を行っているところである。各月齢に即し、より具体的に母子相互作用に介入するような援助の手立てを見出すための示唆が得られるだろう。最終的には、生後3・4ヵ月から生後12ヵ月までの縦断的調査の結果について報告する予定である。

## 引用文献

- 青木紀久代・馬場禮子・出蔵みどり・古川真弓(1999). 調律行動場面における母親の主観的体験 心理臨床学研究, 16, 521-528.
- Emde, R. N. & Sorce, J. F. (1983). The rewards of infancy: Emotional availability and maternal referencing. In Coll, J. D, Galenson, E, & Tyson, R. L. (Eds.), *Frontiers of Infant Psychiatry*. New York: Basic Books.
- (小此木啓吾(監訳)(1988). 乳幼児からの報酬: 情緒応答性と母親参照機能 乳幼児精神医学 東京: 岩崎学術出版社 pp. 35-48)
- 川井尚・庄司順一・千賀悠子・加藤博仁・安藤朗子・中村敬・谷口和加子・佐藤紀子・恒次欽也(2000).

- 子ども総研式・育児支援質問紙(ミレニアム版)の手引きの作成 日本子ども家庭総合研究所紀要, **37**, 159-180.
- Koren-Karie, N., Oppenheim, D., Smadar, D., Efrat, S., & Etzion-Carasso, A. (2002). *Developmental Psycholog*, **38**, 534-542.
- Meins, E. (1997). *Security of attachment and the social development of cognition*. East Sussex: Psychology Press.
- Meins, E., Fernyhough, C., Wainwright, R., Clark-Carter, D., DasGupta, M., Fradly, E., & Turckey, M. (2003). Pathways to Understanding Mind: Constructive Validity and Predictable Validity of Maternal mind-mindedness. *Child Development*, **74**, 1194-1211.
- 奈良間美保・兼松百合子・荒木暁子・丸 光恵・中村伸枝・武田淳子・白畑範子・工藤美子 (1999). 日本版 Parenting Stress Index(PSI)の信頼性・妥当性の検討 小児保健研究, **58**, 610-616.
- Oppenheim, D & Koren-Karie, N. (2002). Mothers' insightfulness regarding their children's internal worlds: The capacity underlying secure child-mother relationships. *Infant Mental Health Journal*, **23**, 593-605.
- Oppenheim, D., Koren-Karie, N., & Sagi, A. (2001). Mothers' empathic understanding of their preschoolers' internal experience: Relations with early attachment. *International Journal of Behavioral Development*, **25**, 16-26.
- 篠原郁子 (2006). 乳児を持つ母親における mind-mindedness 測定方法の開発—母子相互作用との関連を含めて— 心理学研究, **77**, 244-252.
- Sorce, J. F. & Emde, R., N. (1982). The meaning of infant emotional expressions: Regularities in caregiving responses in normal and down's syndrome infants. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, **23**, 145-158.
- 上嶋菜摘 (2008). 乳児とのかかわりにおいて母親が用いる手がかりの検討. 名古屋大学大学院教育発達科学研究科修士論文 (未公刊).

